

メンテ君会員の皆様へ

(株)泉建築設計事務所 代表取締役 菊池光男

メンテ君によせて



上は弊社の近く「大横川」という桜の名所です。
妻がスマホで撮りました。
本当はもっともっと迫力があってきれいです。

桜の花が満開を迎えた頃、メンテ君総会は大盛会でありました。
講師良し、懇親会良し、料理良し。
懇親会ではみな、いつも以上に盛り上がりませんでしたか。
私だけか？
それはメンテ君の今後の発展を示唆するようでした。

当時、私はメンテ君での自分の役割は何だろうかと自問しておりました。

そんな折、帯広の看板事故を受けて鈴木氏の力のこもった投稿を拝見いたしました。
自分も何か発信しなくては、と慌てました。
ずるずると時間が経ち、函館の事故まで続き、連休が終わる今頃になって文字にすることが出来ました。

気が抜けたサイダーみたいで申し訳ありません。

1. 安全性はわからない

実例1 ある駅の高さ2mほどの独立看板が根元から折れて倒れました。

柱は100mm角。その切り口を写真で見ると、薄い塗膜のようなものが残っているだけで、まさに「皮一枚」でした。

調べると、駅前の開発の際に、もともとあった根巻が取り去られていたということがわかりました。経年劣化もありました。

原因はこれです。

でも、深刻なのはこのことではありません。

さすが鉄道会社ですので、看板の点検は年に一度ではありません。数ヶ月おきに全部の看板を触診その他の方法で点検していたそうです。件の看板も数ヶ月前に点検しました。

「菊池さん、僕が思いっきり揺すったんです」

と30代?の男性社員が言います。

一体、自分はどうすれば良かったんですか、と訴えているようでした。

錆が数ヶ月で圧倒的に進行したとは思えませんから、点検時に既に「皮一枚」だったと思われます。皮一枚あれば、男の子が揺すってもしっかりしているのです。

つまり、点検しても不良箇所はわからないということです。

2. その場での対策が必要

実例2 1本の柱に沢山の小さな看板がついた集合形式の独立看板です。

新しいテナントが入ったので、テナント配下の看板業者が600×400の亚克力板を交換したところ、3日後に本体(600×400)ごと落下して女性に当たったという事故でした。

原因は取付ボルトが腐っていたことと、業者さんが亚克力板は交換したが、ボルトまでは点検しなかったことです。

これが原因です。

では、この業者さんがボルトを点検していれば事故は起きなかったのでしょうか。違います。

亚克力板を交換後、会社に戻って見積もりを作成。それをビルオーナーに提出。「では、発注します」という良い返事がもらえるのは、早くても数週間後、遅ければ数ヶ月後ではないですか。

その間にどうせ看板は落ちています。3日後ですから。

あたかも、神様がこの看板をこの日に落とすと決めていて、その3日前に出入りしてしまったというに過ぎません。

この業者さんは本当に不運です。私は、彼がボルトを点検しなかったことを、とても責める気にはなりません。

なぜならば、もし、点検して不良箇所を発見したら、撤去するとかロープで縛るなどの対策をしければ事故は防げないのです。

点検して不良箇所を発見したら、その場で対策をするべきなのです。

では、点検は無意味なのかというと、そうではありません。

街には不良施工の看板、ボロボロの看板が溢れているからです。

(続く)